

【投稿】外国人参政権問題を危惧

会員 北 秀司

民主党政権の野田ドジョウ丸が船出しましたが、国基研の桜井よしこ理事長、田久保忠衛副理事長が数年前から警告してきたように、中国の脅威、とりわけ東シナ海、南シナ海、インド洋における中国の軍事的脅威は現実のものとなってきました。A級戦犯は戦争犯罪人でないという真っ当な考え方を持っている野田佳彦新首相が中国にどう向き合うか、その中で私が最も危惧するのは外国人参政権の問題です。

昨年の参院選で自民党が勝利し、ねじれ国会になりました。本当に良かった。自民党が負けていれば、永住外国人への参政権付与法案が国会を通過し、中国は高笑いしていたことでしょう。ただでさえ日本の国土（水源地など）を買いあさっている中国人が、選挙権を得て市町村の議員や首長になれば、「孫子の兵法」さながらに戦わずして日本を地方から手に入れるという現実が起こります。そうなればさまざまな問題、不都合が生じ、その時しまったと思ってももう遅い。

いったん与えられた外国人参政権に厳しい規制や制限をかければ、中国は人権問題として世界に訴えるでしょう。チベットやウイグルの文化や言語を奪い、人民を圧迫する非人道国家に訴えられるのは、まさにパロデーです。そのとき日本は、日が没する国となり、自治権は失われます。そうならないためにも、国基研は中国の脅威を強く国民に訴えてください。